

宮の空



学校教育目標

「豊かな学びとかかわりを通して、すべての子どもに、未来社会を自分らしく幸せに生きる力を育む」



宮小 学校便り

令和6年7月1日 第4号

佐世保市立宮小学校

校長 藤田 律子

授業のUD(ユニバーサルデザイン)化

6月19日に6年1組で研究授業がありました。国語「私と本」の授業です。宮小学校では、今年度『UD(ユニバーサルデザイン)の視点を活かした授業デザイン』に取り組んでいます。

これは、学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、すべての子どもが、楽しく「わかる・できる」ように、工夫や配慮をして授業をデザインすることです。

今回の6年生の授業には様々なUDがありましたが、中でも一番の工夫は、教科書のブックトークの続きを、3つの例文から選ばせたことです。自分で続きを書きなさいと言われると難しい子も、「選ぶだけならできそう。」と、学習に入ってきます。ところが、この3つの例文が絶妙に難しく、どのグループでも、ブックトークのテーマに立ち返りながら例文を読み比べ、選ぶために真剣に対話する様子が見られました。6年担任の中島教諭が、練りに練って書き上げ準備した例文のおかげで、すべての子どもが真剣に読み、対話する素晴らしい授業となりました。

これから6年生達は、自分の生き方と関わらせてテーマを決め、一人一人自分のブックトークをすることになっています。「楽しむ読書」から「考える読書」へ。この学習を通して、彼らが心を成長させてくれることを期待します。



ネパールの人達と交流

6月25日(火)、南風崎にある長崎日本語学院の学生さん25名が来校し、6年生と交流しました。ネパールの民族舞踊を見せていただいたり、ソーラン節を披露したり、折り紙や独楽、チャンバラ等で一緒に遊んだり、楽しい時間を過ごしました。

高齢化が進み人口が減っていく日本で、外国籍の人も含め多様な人と関わるができる力は、将来必要だと考えます。この交流は継続していく予定です。



すこやか眠活プロジェクト



6月13日(木)に開催された学校保健委員会で、今年度は「睡眠」をテーマに活動していくことになりました。昨年度の「メディア」に続き、子どもたちの心身の健康に直結する内容だと思えます。世界一睡眠時間が短いと言われる日本の子どもたち! 集中して何かに取り組んだり、うまくいなくても何とか気持ちを切り替えたり……そんな前向きで回復可能な心を保つために、睡眠はとても大切だと思うのです。学校と家庭と連携して、取り組んでいきましょう。

7月行事予定

2日(火) 全校朝会

4日(木) 国際理解指導員ジャバリ・ナール先生来校

5日(金) 3年生車いす体験

7日(日) 2年生学年レク(宮コミセン)

10日(水) 交通安全母の会主催自転車講習会

11日(木) SC森先生来校

13日(土) 夏の交通安全運動(~19日)

15日(月) 海の日

16日(火) PTA主催AED講習会(宮中)

16日(火)~22日(月) 学期末短縮授業日

19日(金) 徳育の日、食育の日

21日(日) 家庭の日

23日(火) 第1学期終業日式

25日(木)~30日(火) 保護者面談

8月行事予定

9日(金) 登校日 8.9平和集会

10日(土)~18日(日) 学校閉庁期間

29日(木) 第2学期始業式



熱中症対策グッズの持ち込みについて (保護者の方からのお尋ねにお答えします。)

- ① 登下校時に日傘を使用してもよいか → 使用して構いません。また、体操帽ではなく、つばの広い帽子の使用も、夏場に限りよいことにします。
- ② ネッククーラー(首を冷やすもの)の使用 → 登下校時に限り使用して構いません。ただし、故障の可能性のある物や電池交換が必要な物は不可。学校に持ち込む物には、必ず記名をお願いします。

熱中症予防には、まずはこまめな水分補給! 水筒(お茶)の準備は必ずお願いします。

そして早寝・早起き・朝ごはん!

遊びや冗談で使って欲しくない言葉

立て続けに落書きが見つかりました。全校一斉に指導して消しました。落書きの内容は他愛のないものから卑猥な言葉まで様々ですが、見つけた時に一番暗い気持ちになるのは、「死ね」「殺す」「消えろ」という落書きです。なぜ、このような酷い言葉を書き残そうとするのでしょうか?

私は以前から、子どもたちが簡単にこれらの言葉を使うことを危惧していました。もちろん子どもたちは、本当に誰かに死んでほしいなんて思ってはいません。インパクトの強い悪口として使っているだけ。テレビやゲームの影響も大いにあるでしょう。イライラした時に強い言葉を使ってみたくなる気持ちもわかります。でも、私は、宮小学校でこのような言葉を使ってほしくありません。「死ね」や「殺す」という言葉が飛び交う場所は、誰にとっても、安心できる居場所にはならないからです。

教職員には、もっと言葉に敏感になろう、と話しています。「死ね」などの言葉が聞こえた時、「また言ってる。」と素通りせず、「今、なんて言った! そんな言葉を使わないで!」と、いちいち注意をし、言葉の意味について考えさせていきます。保護者の皆さん、地域の皆さんも、一緒に取り組んでいただけませんか。ふるさと宮から、「死ね」や「殺す」という言葉をなくしましょう。なぜなら、どの子どもも大切な「宮の宝」だからです。